



独立行政法人福祉医療機構

WAMは福祉と医療の民間活動を応援します

Press Release No.4

平成 27 年 8 月 7 日
独立行政法人福祉医療機構
経営サポートセンター長 岐部 宏幸
経営サポートセンター リサーチグループ
グループリーダー 千葉 正展
(電 話) 03-3438-9932
(F A X) 03-3438-0371

医療法人の経営状況について（平成 20 年度-平成 25 年度）

独立行政法人福祉医療機構では、標記に関するリサーチレポートをとりまとめました。

なお、同レポートの内容は、機構ホームページ(<http://hp.wam.go.jp/tabid/1853/Default.aspx>)
にも掲載しております。

1. レポートの概要

当機構では毎年、融資先のお客さまより決算書を提出いただいております。今般、医療法人の決算について取りまとめ、経年分析を行いました（平成 20 年度-平成 25 年度）。

2. 医療法人の経営状況（平成 20 年度-平成 25 年度）の概要

- 収支の状況については、平成 22 年度以降、医業収益対医業利益率は続落の状態にあり、平成 25 年度においては 3.1%と過去 6 年間で最低となるなど厳しい結果にありました。
- 黒字法人、赤字法人割合については赤字法人割合が拡大傾向にあり、赤字法人はもとより黒字法人も資金繰りは年々逼迫していることが分析結果として得られました。
- 法人が赤字へと転落する大きな要因としては、医業収益の減少があげられ、あわせて収益と費用のバランスを保つことが重要であることがわかりましたが、収益の減少に見合った費用の抑制を図ることが難しいコスト構造にあることもみてとれました。
- 医業収益規模の増加率別にみた経営状況を分析した結果、医業収益増加率が高い法人ほど、規模のメリットを活かして費用を低く抑えており、その結果として医業利益の獲得につながっている様子がうかがわれ、利益獲得のためには医業収益規模拡大のための設備投資と効率的な費用コントロールが欠かせないとの結果が得られました。

以上